

〔国際会議発表〕

| | | |
|-------|---|---------|
| 発表研究者 | 法政大学 専任講師 橋爪 絢子 | 2182003 |
| 参加会議 | 9th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE 2018) | |
| 開催場所 | オランダ, USA | |
| 出張期間 | 2018年7月21日～7月27日 | |
| 発表論文 | Competences required for User Surveys on Affectivity, 効果的なユーザ調査を行うために必要なコンピタンス | |

概要 :

AHFE2018 は、人間工学に関する代表的な国際会議の1つで、毎年7月に開催され、応用人間工学の研究に携わる幅広い分野からの研究者に発表の機会を提供している。本国際会議は、1つの組織委員会の下で管理される多数の国際会議の集合体で、今回は37の国際会議が併催された。そのうち、今回6回目の開催となる International Conference on Affective and Pleasurable Design のオーガナイズドセッションにて、申請者は2件の発表を行った（人間中心設計におけるユーザ調査を適切に実施するためのコンピタンスについて、かわいいデザインに関する印象評価について）。2件のうち、前者が助成の対象となった研究発表である。

人間中心設計による製品やサービスの開発を行う際には、その上流工程で、ユーザ調査の結果にもとづいて「利用状況の理解と明確化」を行う。しかしながら、本格的なユーザ調査を実施できる専門家の絶対数が少ないために、ユーザ調査が適切に実施されていない場合が多く、的確なユーザニーズが把握できない等の問題が生じている。このことは、評価後の反復回数の増加といった開発の非効率化に加えて、ユーザニーズへの適合性が保証されないままの製品化等、人間中心設計の目的の逸脱にも繋がっている。一方で、ユーザ調査の具体的な工程は明らかになっておらず、ユーザ調査の実践的スキルを習得するための教育技術も未開発な現状にある。本研究では、ユーザ調査の実践的スキル習得のための教育技術を発展させることを目的として、初学者が効率的に技能を身につけてユーザ調査を適切に実施できるようになるための方策について検討した。本研究の発表は、感性工学に関するセッションで行われ、製品やサービスの開発における人間中心設計の考え方とその上流工程でのユーザ調査の重要性について、改めて認識されることとなった。